

統計の眼

アメリカ農業における契約の浸透

近年、アメリカ農業及び関連産業は大きな構造変動のただなかにある。カーギルによるコンチネタルの穀物部門の買収に象徴されるような企業買収及び戦略的提携の急速な進展は、生産部門にも大きな影響を与えるものと予想される。

そのような企業間の急速な動きの背景には、グローバル競争の激化があることはいままでもない。それ以外にも、消費者の多様なニーズに因應するために、様々な対応を迫られている点があげられる。特に重要なのが消費者の健康や安全に対する意識の急速な高まりである。これは、遺伝子組み換え食品に限ったことではなく、農産物全般に対して該当する。このため、企業は生産・加工経路を明確化して、消費者からの信任を得ることが必要となっている。

また、加工食品では調理済み食品への需要の増加が、加工技術の向上による新商品の開発と、原材料の高品質化と品質の均質化を求めている。家庭での調理時間が急速に減少する中で、品質とのバランスを取りながら、多様な加工食品の提供が必要不可欠となっている。

このような状況下において、企業に与えられた選択肢のひとつが生産部門への

積極的な関与であり、その具体的な手法が契約生産及び販売契約である。これについては、養鶏や綿花でその浸透がかなりの程度進んでいることはすでに指摘されている。しかし、近年他の部門への浸透が著しい。特に目ざましいのが養豚である。パッカーの買収の展開と同時並行的に、生産・販売契約の導入が急速に浸透している。

さらに、最も保守的な穀物にしても、遺伝子組み換え種子の今後の普及によっては契約生産等の導入が急速に進むことも十分に考えられる。
(大江)

アメリカでの豚の出荷頭数における取引形態別シェアの推移

